



発行責任者 柳 利夫  
 住所 東村山市萩山町5-6-26-301  
 2.5 Tel. 0423-92-8808  
 編集者 川村 英明

2月4日は第7回定期総会です  
 協議会会長 柳 利夫

つぎの要領で、東村山市民テニスクラブ協議会の第7回定期総会を開催します。

日時：2月4日(日) 午後2時～4時

場所：市民センター(旧東村山市役所) ~~社会福祉センター~~

- 議題：① 前年度の事業報告(案)と財務報告(案)の検討と承認の件  
 ② 今年度の事業計画(案)と財務計画(案)の検討と承認の件  
 ③ その他

これまでの私たちが活動してきたことを反省し、向う一年間の私たちがしていきたい方向を検討して、意義深い総会にしたいと思います。

何かとご多忙なこととは思いますが、万障お繰り合わせのうえ、ぜひご出席下さるようお願いいたします。どうしても都合悪く出席できない方は、各クラブの会長、または事務局長・菅野井孝之(電話・東村山92-8066)まで、その旨をご連絡下さるようお願い致します。

みんなで  
創ろう

市民テのしおり

すばらしい  
クラブを

私たちの東村山市民テニスクラブ協議会は、市内在住者で組織されている地域クラブ(東住、恩多、本町、青葉、……の各クラブ)で構成されており、会員は全員がいずれかのクラブに所属することになっています。

入会するにあたっては概略次の諸事項を確認し、実践できることを条件にしています。

1. すべての会員は会の運営に自主的かつ民主的に参画する。
2. 市営コートが公式行事(例えば連盟主催の試合や教室)で使用不能の時以外、定期練習にすべての会員が平等に参加できる。
3. 会員は全員がそれぞれのクラブのグループに分かれ、当番制で運動公園内の管理事務所へ出向き、割りあて日の1ヵ月前にコートの使用許可をとることが最低の義務です。(会費を前納することはもちろんです。)
4. 緊急の連絡はそれぞれのグループ毎に、次の会員へ順番に責任をもって行なう。
5. コートへ入るときには必ず所定の名札(フルネーム)をつけ挨拶をして入り、名簿に署名する。また練習時間の途中で帰るときはあらかじめ申し出ておく。コートを出るときは挨拶をする。

6. 練習中は全員がボール拾いをし、練習の効率化に努力する。
7. 練習が終わったら全員でコート整備をし、後片付けを済ませて帰る。

市民テの仲間入りをして

恩多クラブ 山本 健

思えば半年前、強烈な日ざしの下で、コートに照り返す熱気と身体中を流れ落ちる汗に、半日とはいえこの数年間運動らしい運動をしていない私にはかなりキツイ練習でした。基本的な技術を習う前に、まず、肉体的な壁にぶつかりそれを乗り越えねばならず疲労困ぱい、チョット、オーバーかな!これも血汗の苦味の手習いの悲哀がもたせません。しかしながら、練習を終え、汗を流してからのボールの旨さは格別!勤め帰りに同僚を誘って、冷房のゆきとどいたビヤホールで飲む味とは教壇の閉きがあると思う。この快感に引きずられた感はかなり強く、練習をサボる事もなく、出席率だけは大部高いアベレージを揚げえたようです。

初心者が技術的な事を申してはおこがましいと思うのですが、当初、フォアハンドストロークに於て、脇の甘さと云うよりか、脇が完全に開いて打ってしまう悪癖に悩まされ続け、頭の中では理解されていても、いざ球に直面すると、ついそれが出来て開いたまま打ってしまう。フットワークも勿論悪いのですが、学生時代に習った卓球の影響もかなり強く、ドライブを掛ける癖が見事に現われ困り果てました。この癖も、バックハンドストロークの練習が始まってから徐々に直って来ました。バックハンドのラケットワークがまがりなりにも、フォアハンドより先に振れるようになり、フォアハンドの方が後から良くなる云うのは変わった存在になりませんか? 悪い癖は早く取り除き、利臭のみを生かして、上達の道にまい進したいと思えます。

新年を迎え、新しく初心者の方も入ってきました。これを期に初心に帰り、一球一球を丹念に、華麗なフォームとか美しいフォームとは云いません。確実なフォームと強いストロークを打てるよう頑張ります。

今後の御指導をよろしくお願い致します。

恩多クラブ 小山 てる子

ガットの編集部の方から、テニスクラブ入会の動機を書いて欲しいと言われましたが、どの様に書き出しているのか悩みました。きっかけは藤岡さんの紹介です。それまではテニスを、やってみよう等と思っていませんでした。主婦が余暇を利用してテニスを楽しんでいるのを見て、私にも出来るのでは……と入会させていただいたのです。

(ウラ右上へつづく)



# 私とテニス <連載>

16

## ラケットの独り言

東住クラブ 早川 洋一

私はラケットである。今の持主に新宿のとある専門店から買われたのが、今から一年半程前になろうか。

私の主人、ここでは「ミスターH」（あまり語呂はよくないが）としておこうか。ミスターHがミセスHと共にお互いに生まれて初めてテニスなるものを始めてから一年程経って、なんとかグランドストロークが少しは続くようになり、面白くなりはじめた頃だったと思う。今まで使っていた安いウッ드의ラケットから私に替えたもので、つまり私が二代目というわけになる。

かくいう私は、生まれはあの有名な日本楽器で作られ、ヤマハというブランドで売られているファイバークラスのラケットである。グラス特有のしなりに腰の強さをアラスし、思い切り強打してもコントロールが自在で、その上薄いネックがどんな変化球も可能にしている。ただしこれらの特徴も、上手な人が使ってこそ生かされるのであって、昔から「弘法筆を選ばず」のたとえ、いくら良いラケットを使ったからといって特別に腕があがるわけでもなく、凡打しかできないからといって、私のせいにはされるのでは甚だ迷惑なのである。仕事の関係がなんか知らんが、練習量が少ないので無理もないが、どうしてよくフレームでボールを打つのだろうか。バドミントンなら完全に失笑なのに、どうかガットの芯で打ってもらいたいものである。それもまだフレームにでも当たればよい方で、時には全然がすりもせずに空振りすることもあるのだから、まったくいやになるよほんと。私の身にもなってよ。

上手な人のラケットは、常にボールが一定の所に当たるからガットの中心だけが黒く変色していて、それだけで腕が判ろうというもの、ミスターHも早くそうなってもらいたいものである。いやー、期待するのは無理かな。

ミスター&ミセスH共に不器用で、その意味では似たもの夫婦といえよう。試合などでもいつもパートナーの足を引張りお気の毒なものだが、本人もそれを気にしているしお歳に免じてご寛容あれ。

しかしたとえボールがまともに当たらなくとも汗をかいて走り廻り、本人は結構楽しんでるのだから天下泰平である。これも市民テニスクラブならでは、他のクラブではとてもこうはいくまいと思う。

仕事、仕事もよいけれど、せめて月に二、三日は私を引張り出して新鮮な空気を吸わせてもらいたいもの。それに年に一度はガットも張り替えてほしいし、グリップの皮も変えてほしい。使えばなしで炎天下の車のトランクに入れておかれるようでは私の寿命もそう長くはあまい。

最後にあらたまって、ふつつかものではありますが私の主人ミスターHを、今後共よろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

年賀状アラカルト  
◆ 昨年は遠路来柏いただきありがとうございました。トロフィーも大切に保管しています。本年は、又そろそろうかがいませうございまして。前、5月下旬に嫁をむかえます。出逢いはTENNISでした。  
◆ 新年早々に、「うちのカミさん デアダンスキー」……なりと些か迷惑な名前を付けられて発憤はしたものの瘦せるために減食する程の気にもなれませんが道はなしと、固く決心した次第です。  
◆ 本年も相変わらずやっています。即ち、飲むのも程々、テニスも程々アキラも程々…… (無断借用を御許、編集部)

(N オモテ右下より)

職業人から家庭へ、そして子育てと追われた日々、気がついて見れば、是と云って何も身につかず、ウン十年が過ぎてしまったのでした。中高時代はバレーボール、卓球、陸上競技とやった私でしたが、テニスだけは縁が無く、ラケットを握った事さへありません。黄昏迫る校庭で打ち合う仲間を、横目で見えていたものです。主人にテニスクラブ入会の希望を話した所、「大いに結構だ、賛成だよ。」と言われ、入会させて頂きました。

初めてラケットを握った瞬間、手足が緊張で小さくみに震えました。コートに入り、球を送って貰って打った時は、胸がつまり不安と興奮で一杯でした。球送りをして下さる先輩に、「今のはいいですよ」とか「ナイスショット」等と言われようものなら、成程こんな風にやるんだなど、頭では納得するけれど、体が自由について来ません。下手でも声を掛けて貰える事が、初歩の私にとっては嬉しいものでした。

テニス部に入り、沢山のオタと知り合い、お話の出来る事も、嬉しい楽しみの一つです。入会させて頂き本当に良かったと、しみじみ思っています。ただ、私の知は子供が小さい事と、自営業であるために自由時間の無理が利かず、限られる練習時間である事が残念です。次の回にコートに向う時の足どりが、重くてなりません。上位の方の打つ素晴らしい一球一球を見る度に、早くあの人達の何分の一でも良いから上手になりたいと、しみじみ思う今日この頃です。数少ないコート通いですが、やれる範囲で頑張りたいと思えます。どうぞ今後共宜敷くお願い致します。

## 便り

ようやくソロソロ歩けるようになりました。一日も早い全快、復帰をお待ちしております。 市民テニ協会

(恩多クラブ) 青山秀夫さん

御無沙汰しております。私は、テニスを始めることに恐怖しているものです。というのも、あの忘れもしない8月30日の夜間テニスで足首を骨折してしまったからです。その折には、みなさまに大変御迷惑、御心配をおかけしました。この紙面をおかりしてお礼を申し上げます。

松葉杖で歩いていると、友人たちから「何で骨折したんだ」と骨折の原因について問い質されます。私が「テニスで」と答えると、「えっ!? テニスで……」「テニスでも骨を折るのか!? ……」などと友人たちから感心!? されるありさまです。テニスで骨折することは、大変珍奇なことのようです。なんとか弁明しようと思うのですが、自分でも呆れているので弁明しようもありません。

この珍奇なことを私なりに整理しますと、いくつかの教訓がでてきます。まず日常的に運動をすることです。また、出来ないなら、それなりの慎重さを持って行なうことです。私にとってこの日のテニスは、1ヵ月半ぶりではりきってテニスをしていましたが、体が意識についてゆかなかったようです。第二に、準備体操の問題です。これは、すでに「ガット」で指摘されています。第三は、コート状態の問題です。この夏は、雨が少なく、コートは砂漠のようになっていました。私は、この砂漠に、ボールを追ったさい、足をのめりこませたとき「ホキッ」「ホキリ」とやってしまったのです。コート状態を配慮してテニスをするのも怪我防止に欠くことの出来ない要素でしょう。

夏ごろまでには、またテニスが出来るとなると思えます。その時は「テニスの恐怖」がきえるよう、なにとぞお手伝いをお願いします。